

2026年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月29日

上場会社名 ピープル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp/>
 代表者（役職名）取締役兼代表執行役（氏名）桐渕 真人
 問合せ先責任者（役職名）IRチーム チーム長（氏名）小岩 朋紀（TEL）03-3862-2768
 半期報告書提出予定日 2025年9月1日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満四捨五入）

1. 2026年1月期第2四半期（中間期）の業績（2025年1月21日～2025年7月20日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年1月期中間期	638	△11.1	△176	—	△177	—	8	—
2025年1月期中間期	718	△70.0	△147	—	△144	—	△150	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年1月期中間期	1.96	—
2025年1月期中間期	△34.39	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年1月期中間期	1,861	1,751	94.1	457.62
2025年1月期	2,300	2,128	92.5	486.51

（参考）自己資本 2026年1月期中間期 1,751百万円 2025年1月期 2,128百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年1月期	—	0.00			
2026年1月期（予想）			—	—	—

（注）2026年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でありますため、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

3. 2026年1月期の業績予想（2025年1月21日～2026年1月20日）

2026年1月期第3四半期累計期間業績予想（2025年1月21日～2025年10月20日）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期（累計）	1,089	△12.5	△206	—	△206	—	△22	—	△5.48

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（注）当社の通期業績は、年末商戦期間（10～12月）の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきですが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年1月期中間期	4,437,500株	2025年1月期	4,437,500株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年1月期中間期	611,352株	2025年1月期	63,352株
-------------	----------	----------	---------

③ 期中平均株式数（中間期）

2026年1月期中間期	3,998,723株	2025年1月期中間期	4,374,148株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	6
中間会計期間	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9
カテゴリ別販売の状況	9
① 中間会計期間売上高	9
② 新発売商品及び主なリニューアル商品	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間に「好奇心事業」第1弾、世界共通の1歳の好奇心を満たすおもちゃシリーズ「1curiosity（ワンキュリオシティ）」をローンチいたしました。そもそも当社が新事業の立ち上げに取り組むことになった経緯をご説明しますと、当社の属する幼児用の玩具市場において市場規模の縮小が続いており、それは少子化も要因ではあるものの、最大の課題は、子育て世帯の価値観と行動に大きな変化が起きているにも関わらず、現在市場にある商品が消費者のニーズを捉え損ねていることに尽きます。当社においても厳しい環境が続き、足下では苦戦を余儀なくされております。

そこで改めて当社が長期的な視野に立って幼児にとって普遍的で本質的な商品を開発、提供することで、新たに市場創出できる成長機会ととらえ、子どもの好奇心という根源的なテーマを徹底的に追求することで付加価値を生み出し、持続的に提供する「好奇心事業」を2025年よりローンチする計画に取り組みました。

「1curiosity（ワンキュリオシティ）」シリーズは日本において2025年5月7日にローンチしました。発売直後よりSNSにおいて当該新商品情報がまたたく間に拡散し、当社初の自社販売サイトにて予想以上の売れ行きを見せ、好調なスタートをきり、SNS認知から店頭サンプル体験を経て購買に至るというオンラインとオフラインの相乗的な成果が現れております。

さらに特筆すべきは、一般的に乳幼児向け玩具は母親主導で選ばれることが多いとされる中で、当該シリーズの父親認知の高さは際立っております。商品仕様における機能的な合理性や構造の工夫といった、男性が関心を持ちやすい要素に加え、近年はコロナ禍以降の就業スタイルの変化を背景に、父親も育児に積極的に参加したいという意向が強まり、その結果、夫婦で協働して育児に取り組む家庭が増え、父親自身が玩具選びに関与する傾向が高まっていることが認知の広がりを後押ししております。

また日本に続きローンチした英国において、当該シリーズは早くも高い評価を得ており、英国の独立系玩具店が選定する「Independent Toy Awards2025」でGold Medalを受賞、さらに英国の育児誌「Absolutely Mama」主催の玩具部門アワードでBronze賞を受賞いたしました。ローンチ前の時点でも英国でのエキシビションでは当シリーズのコンセプトに共感する声を多く頂いていましたが、これらの受賞は「正解のない自由な遊び」というオープンエンドなコンセプトが世界共通で受け入れられることを裏付けました。

この好循環をチャンスとして当社のブランド価値を伝え、認知度を高めるべく、積極的な広報・IR活動により「好奇心事業」の共鳴の輪を広げていきます。

当中間会計期間の経営成績は、売上高6億38百万円（前年同期間比11.1%減）、営業損失1億76百万円（前年同期間は1億47百万円の営業損失）、経常損失は1億77百万円（前年同期間は1億44百万円の経常損失）、また特別利益として2025年3月18日付に公表いたしました投資有価証券売却益1億84百万円を計上し中間純利益は8百万円（前年同期間は1億5千万円の中間期純損失）となりました。

国内販売においてこの売上の柱となったのは、構成玩具のピタゴラス「ボールコースター」であり、さらに7月1日発売の「赤ちゃん観察シリーズ（全5品）」、「こども専用ICカード P♪siyoca（ピッしよか）」の初動好調な動きを見せております。「こども専用ICカード P♪siyoca（ピッしよか）」については通常の玩具店の他に鉄道博物館内ショップや鉄道グッズ専門店でもお取り扱い頂いております。

海外販売では、米国向け「Magna-Tiles」の販売先との契約変更に伴い、前期48期より当社IPが含まれるセット品に対するロイヤリティ収入に切り替わったことで4月の米国の通商政策の直接の影響はありませんでした。またアジア市場の内、台湾及びタイにおいて知育玩具・構成玩具・ベビー用品が堅調に推移しております。

(中期的な方針)

当2025年の好奇心事業ローンチを中心に、当社の取り組みを広く認知していただくことが、商品ブランド育成にとって重要と考え、広報活動を積極的に行ってまいります。

PR TIMES STORY <https://prtimes.jp/story/detail/qb6ovdu0ykB>

X(旧Twitter) https://twitter.com/PRTIMES_TV/status/1648884197648478209

これら中期を見据えた施策を行いつつ、短期的な収益性改善策として、以下のような活動を継続的に行って参ります。

- ① ロングセラー商品の順次値上げ
- ② ニーズのある商品を集中的にプロモーションし、お届けしていく活動
- ③ 潜在顧客に刺さるような新商品開発
- ④ 投資家の皆さまはじめ社会に向けた情報発信のためのIR活動

これらの最新の活動状況は、当社のnote「ピートラ」にて発信しております。

(<https://note.com/people.pr>)

(カテゴリー別の概況)

当中間会計期間の各カテゴリー別売上高およびリニューアル発売品につきましては、9ページをご参照ください。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当中間会計期間末における資産合計は、前事業年度末から4億39百万円減少の18億61百万円となりました。

流動資産では、主に自己株式の取得や研究開発等の先行投資に伴う現金及び預金の減少等により、前事業年度末から3億13百万円減少の16億55百万円となりました。

固定資産では、主に2025年3月18日開催の取締役会決議に基づく保有株式売却による投資その他の資産の減少等により、前事業年度末から1億25百万円減少の2億6百万円となりました。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末から62百万円減少の1億10百万円となりました。

流動負債では、主に買掛金の減少により、前事業年度末から27百万円減少の1億6百万円となりました。

固定負債では、前述の保有株式売却による繰延税金負債の減少により、前事業年度末から34百万円減少の4百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は、2025年3月18日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得による自己株式の増加、及び保有株式の売却によるその他有価証券評価差額金の減少等により、前事業年度末より3億77百万円減少して17億51百万円となり、その結果、自己資本比率は94.1%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末より3億39百万円減少し11億1百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前中間純利益7百万円を計上したものの、主に投資有価証券売却益の計上と棚卸資産の増加の結果、2億1百万円の支出となりました(前中間会計期間は2億16百万円の支出)。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に投資有価証券の売却により1億65百万円の収入となりました(前中間会計期間は14百万円の支出)。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に自己株式の取得により3億4百万円の支出となりました(前中間会計期間は2億8百万円の支出)。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

（第3四半期累計期間 業績予測）

現在当社は、2025年春から順次新規事業をローンチさせていく計画の途上であり、当期はその過程において、総力を新事業開発に充てながらブランド力の強化と認知、既存品群の選定による収益力改善を進行しており、その進行は現時点において計画通りであることをまずお知らせいたします。

過渡期となる当期は、一時的ながら大幅な業績低下を見込んでおりますが、低迷する市場からの脱却のため、当社が向かおうとする、普遍的な子どもの好奇心をはじけさせるきっかけとなるモノ作りにおいて当社にしかない力を強化し、業績回復を目指してまいります。

予想値としましては、第3四半期累計期間（2025年1月21日～2025年10月20日）は、売上高10億89百万円（前年同期間比12.5%減）、営業損失2億6百万円、経常損失2億6百万円、四半期純損失22百万円と予想しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年1月20日)	当中間会計期間 (2025年7月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,441,110	1,101,466
売掛金	212,187	186,636
商品	263,024	343,773
原材料	1,661	1
その他	54,246	25,072
貸倒引当金	△3,429	△1,570
流動資産合計	1,968,800	1,655,377
固定資産		
有形固定資産	53,023	51,390
無形固定資産	36,005	37,917
投資その他の資産	241,768	116,207
固定資産合計	330,796	205,514
資産合計	2,299,596	1,860,891
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,594	4,098
未払法人税等	3,237	4,610
その他	106,991	96,849
流動負債合計	132,822	105,557
固定負債		
繰延税金負債	38,719	4,399
固定負債合計	38,719	4,399
負債合計	171,542	109,956
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,655,834	1,663,670
自己株式	△34,362	△337,954
株主資本合計	2,022,978	1,727,222
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	105,076	23,714
評価・換算差額等合計	105,076	23,714
純資産合計	2,128,054	1,750,935
負債純資産合計	2,299,596	1,860,891

(2) 中間損益計算書

中間会計期間

(単位: 千円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月21日 至 2024年7月20日)	当中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)
売上高	717,639	637,991
売上原価	386,688	353,515
売上総利益	330,951	284,476
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	14,170	44,016
販売促進費	22,435	26,304
運賃	38,348	33,591
役員報酬	28,403	31,403
給料及び手当	63,157	50,716
退職給付費用	8,353	7,327
支払手数料	59,268	56,943
研究開発費	149,496	116,053
その他	94,616	94,075
販売費及び一般管理費合計	478,247	460,427
営業損失(△)	△147,296	△175,951
営業外収益		
受取利息	162	4
受取配当金	2,340	480
為替差益	817	-
その他	224	701
営業外収益合計	3,543	1,185
営業外費用		
為替差損	-	1,653
その他	-	485
営業外費用合計	-	2,138
経常損失(△)	△143,753	△176,904
特別利益		
投資有価証券売却益	-	184,250
特別利益合計	-	184,250
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△143,753	7,346
法人税、住民税及び事業税	648	1,441
法人税等調整額	6,022	△1,930
法人税等合計	6,670	△489
中間純利益又は中間純損失(△)	△150,423	7,836

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前中間会計期間 (自 2024年1月21日 至 2024年7月20日)	当中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△143,753	7,346
減価償却費	14,511	24,140
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△269	△1,859
受取利息及び受取配当金	△2,502	△484
為替差損益(△は益)	△15	41
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△184,250
売上債権の増減額(△は増加)	195,202	25,551
棚卸資産の増減額(△は増加)	△33,129	△79,088
前渡金の増減額(△は増加)	427	85
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,487	△18,496
前受金の増減額(△は減少)	△12,905	△5,489
その他	△109,162	31,561
小計	△106,080	△200,942
利息及び配当金の受取額	2,502	484
法人税等の支払額	△112,119	△338
営業活動によるキャッシュ・フロー	△215,698	△200,796
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,822	△24,467
無形固定資産の取得による支出	-	△6,549
投資有価証券の売却による収入	-	195,994
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,822	164,978
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	-	△303,592
配当金の支払額	△207,888	△193
その他	205	180
財務活動によるキャッシュ・フロー	△207,683	△303,604
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	△41
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△437,188	△339,464
現金及び現金同等物の期首残高	1,823,193	1,440,828
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 1,386,005	※ 1,101,365

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年3月18日開催の取締役会決議に基づき、2025年3月19日付で548,000株の自己株式の取得を行っております。この結果、当中間会計期間において自己株式が303,592千円増加し、当中間会計期間末において自己株式が337,954千円となっております。

(セグメント情報等)

当社は、玩具及び乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

3. 補足情報

カテゴリー別販売の状況

① 中間会計期間売上高

(単位：千円)

カテゴリー名	2025年1月期 中間会計期間 (自 2024年1月21日 至 2024年7月20日)	2026年1月期 中間会計期間 (自 2025年1月21日 至 2025年7月20日)	前年同期比 (%)
乳児・知育・構成玩具	531,550	520,263	97.9
メイキングトイ	13,286	2,873	21.6
その他(遊具・乗り物・育児等)	75,916	25,659	33.8
海外販売・ロイヤリティ収入	96,887	89,196	92.1
合計	717,639	637,991	88.9

② 新発売商品及び主なりニューアル商品

カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育・構成玩具	「じぶんでキラッ!クルッ!ドーム」	¥4,400
	「チアBoo!」	¥4,950
	lcuriosity「モギ・モギ」	¥7,700
	lcuriosity「フム・フム」	¥5,500
	lcuriosity「カラ・クル」	¥4,400
	「こども専用ICカードP♪siyoca(ピッしよか)」	¥2,200
	「いたずら1歳やりたい放題プレミアム」	¥7,920
	赤ちゃん観察シリーズ「なめかみボール」	¥1,980
	赤ちゃん観察シリーズ「やみつきカミカミ」	¥1,980
	赤ちゃん観察シリーズ「ぐずびたマラカス」	¥1,980
	赤ちゃん観察シリーズ「ひかりのリング」	¥1,430
	赤ちゃん観察シリーズ「放さないんディスク」	¥1,980